秋葉区

九条の会

No.５０記念号　2014.2.14

秋葉区「九条の会」事務局
新津教育会館内
新潟市秋葉区善道町２－９－44
Tel 0250-23-0764　Fax 0250-23-0764
http://9jo.iinaa.net/index.htm

秋葉区「9条の会」の会報が50号を迎えました。1回も休むことなく発行できたのは、会員の皆様のおかげです。ありがとうございました。

「安倍総理気分はもう戦争」

瀬戸内寂聴さん［誰かが止めないと戦争を始めるわよ］

上のタイトルはいずれも最近の「週刊現代」の記事の見出しです。(12月28日号、2月15日号)

国の内外に向けられた安倍首相の挑発的、好戦的な言動は、危険水域をこえた異常なものになっています。

国民に向けた「戦争」

大企業は20兆円減税国民には8兆円の増税、消費税、社会保障解体、原発再稼働,TPP、基地の辺野古移設秘密保護法、集団的自衛権の容認、憲法改悪…。どれにも国民の多数が必死に声を上げているのに、強行に次ぐ強行で進める。それはもう国民に仕掛けられた「全面戦争」です。

虚構の多数

国会で多数を占めていることが自民党の暴走を許していますが、それは小選挙区制という民意を反映しない制度によるまやかしによるものです。わずか4割の得票で7割もの議席、そんな虚構による暴政に国民は決して黙っていないでしょう。

本物の戦争への道

安倍首相は内外の強い批判や忠告を無視して靖国神社に参拝しました。死んだ兵士への哀悼を述べた談話には、その兵士たちに殺されたアジア2千万の人々への謝罪と哀悼の言葉がありません。彼に欠けているのは正しい歴史認識と犠牲者への痛みへの想像力です。親兄弟を殺され。家を焼かれ、土地を奪われた人々の恨みがどれほど深いか、参拝という挑発行為がどんなに危険か、彼ら靖国派には理解できないのです。

「本当に怖いんです」

91歳の寂聴さんはいいます。「安倍さんがやっていることは、まるで戦前の日本に戻して戦争する国にすること、あの暗い時代を知っている私には、今が昭和16年、17年のように感じられ、軍靴の音がすでに聞こえてくるような気がして、本当に怖いんです」

私たちは、いま自民党政権によって戦争という地獄の道連れにされようとしています。戦争はいったん始まったら取り返しがつきません。絶

秋葉区「9条の会」8周年のつどい

4月27日（日）13：30～16：00　会場　新津健康センターはつらつホール（予定）

講演　**五十嵐　仁**法政大学教授（大原社会問題研究所・新潟県出身）

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなぐ、平和のメッセージを！

「終わりに見た街」

星山 圭（新津本町）

いま世の中が不気味な方向に向かっています。その先に何が待っているのかを考える参考になる本を紹介します。

山田太一　「終わりに見た街」

身の毛がよだつ恐ろしい小説です。ただし、ミステリーでもホラーでもありません。
若い夫婦と子ども 2 人が東京近郊の新興住宅地に住んでいます。ごく平凡で穏やかな毎日です。ところが、ある朝起きてみるとあたりの景色が一変、タイムスリップして戦前に逆戻りしたのです。

地獄のような恐怖の日々が始まります。まわりの男たちはみんなカーキ色の国民服、女は地味なモンペ姿、カラフルな一家はイヤでも目立ちます。家の中の家電製品も疑惑の的です。見たこともないオーディオは通信器でアメリカに情報を送っているスパイに違いないと噂がたちます。
米や衣類は配給制で、向こう三軒両隣の隣組が取り仕切っているのですが、これが実は相互監視を兼ねていて、絶えず怪しい一家を見張っています。これまでのように気軽に戦争や政府を批判しようものなら、たちまち通報されて警察に連行、監獄に入れられてしまう。

たえず米軍機の空襲におびえている上に、うっかり電燈を明るくしておいたりすると、狙われて爆弾を落とすからと、隣組のボスになっている八百屋のオヤジに怒鳴りつけられる。いっときも気の休まることがありません。
結局、現在の私たちの当たり前の日常が、この戦前の社会ではなりかねないのです。1 億人を入れる監獄はないから日本全体を監獄にした、これが戦前の社会でした。

私は、昭和 8 年生まれ、敗戦の時には 12 歳でしたから、戦前の日本を体験的に知っています。
だから、架空の話とは言え、この小説は身の毛がよだったほど恐ろしいのです。そして、安倍晋三氏ら靖国派は、戦前の日本社会を美しかったといい、復活を目指すという。恐ろしさは架空のものでなく、現実になってしまうかもしれません

評論家　立花　隆

「歴史的記憶を失う瀬戸際」

新潟日報　2014. 1. 26

Q:日本は来年、戦後 70 年です。大きな歴史の流れにどう位置づけられるのでしょう。

立花:70 年という時間は、世代が交代し、1 国の歴史的記憶を完全に塗り替えてしまうような時間です。われわれは決して忘れてはならないとされてきた、あの戦争の記憶を失う瀬戸際まできていると思います。あの戦争が国民に強いた犠牲の大きさの記憶でなく、あの戦争を始める決断をした日本の為政者たちがそろいもそろって愚かの限りとしか言いようがない決断をしたという記憶です。

Q:戦後日本が得たものとはなんですか。

立花:憲法 9 条でしょう。敗戦後、焼け野原の何もない状態から日本は経済的に急成長し、世界的成功国家になった。これは 9 条によって戦争を完全に放棄したからです。戦後日本の繁栄の根本には憲法があったのです。

Q:安倍晋三首相をどのように見ていますか。改憲を打ち出し、特定秘密保護法を成立させました。

立花:権力が歴史の審判を受けずにすますことは、あってはならない。日本人は戦前・戦中と占領期の歴史を十分に分析できず、歴史の教訓を国民全体の共有財産にできていません。当時の書類が大量に処分され、読めないからです。秘密保護法によって事実が闇に消え、政治を検証できなくなるのは恐るべきことです。

立花隆氏の提言を読んで、改めて考えさせられた。日本人は、戦前・戦中・戦後の歴史の分析をしてきたのだろうか。歴史の教訓を国民全体の共有財産にしてきたのだろうか。皆様一緒に考えませんか。
（事務局）